

せ かい 世界を より良く する て っ だ お手伝いを しよう

「お母さん。今日は先生が、住む世界をより良く
する方法を見つけることについて話して下さったの。」
お母さんと一緒に学校から帰るとちゅう、
ディードラが言いました。「だけど、何ができるか
わからないわ。」

「周りの世界を良くするお手伝いなんて、すてきな
取り組みね。町内でできるちょっとしたことでも役に
立つて、知ってたかしら？ 例えば、公園なんかの
公共の場でできるお手伝い。」

公共の物を大切にすることもだわ。ゴミを
散らかさないとか、わざと物をこわさないとか、花だんの
草花をふまないようにするとかね。家の庭をきれいに
したり、しばふや通路におもちゃを置きっ放しに
しないようにするなら、近所の見栄えが良くなるのに
役立つわ。」



ディードラはしばらく ^{かんが} 考えると、^い 言いました。
「ねえ、お母さん。公園にゴミが散らかってるわ。
^{ひろ} 拾ってもいい?」

「まあ、やさしいのね。じゃあ、一度 ^{いちど} 家 ^{いえ} に ^{かえ} 帰って、
^{ぐんて} 軍手と、ゴミを ^い 入れる ^も カゴ ^ま を ^き 持って来ましょうか?」
お母さんが ^{かあ} うなずいて ^い 言いました。

^{ひつよう} 必要な ^{もの} 物 ^{ようい} を ^{かあ} 用意 ^お すると、ディードラは ^{かあ} お母さんと、
^{みちぞ} 道 ^お 沿いに ^{ひろ} 落ちて ^{はじ} いる ^す ゴミ ^す を ^{はじ} 拾 ^{はじ} い ^{はじ} 始め ^{はじ} ました。

「どうしてこんなにゴミを ^す 捨てるのかしら?」と、
ディードラ。

「そうねえ。物 ^{もの} を ^{たいせつ} 大切 ^{こと} に ^{こと} を
^{おし} 教 ^{ひと} え ^{ひと} ら ^{ひと} れて ^{ひと} いない ^{ひと} 人 ^{ひと} たち ^{ひと} が ^{ひと} いる ^{ひと} の ^{ひと} ね。
むとんちゃくが ^{まわ} 周 ^{ひと} り ^{ひと} の ^{ひと} 人 ^{ひと} たち ^{ひと} や ^{しぜん} 自然 ^{しぜん} に
めい ^わ わ ^わ くだ ^わ だ ^わ っ ^わ て ^わ 分 ^わ か ^わ っ ^わ て ^わ いない ^わ い ^わ ん ^わ で ^わ しょ ^わ う。
だけ ^ち ども ^ち ね ^ち、^ち 散 ^ち ら ^ち か ^ち る ^ち こ ^ち と ^ち っ ^ち て ^ち 必 ^{かなら} ず ^{かなら} あ ^{かなら} る ^{かなら} こ ^{かなら} と ^{かなら} だ ^{かなら} か ^{かなら} ら、
た ^{かたづ} だ ^{かたづ} 片 ^{かたづ} 付 ^{かたづ} け ^{かたづ} れ ^{かたづ} ば ^{かたづ} い ^{かたづ} い ^{かたづ} だ ^{かたづ} け ^{かたづ} の ^{かたづ} こ ^{かたづ} と ^{かたづ} な ^{かたづ} の ^{かたづ} よ。」



「例えば、公園でランチを食べてる時に、
風でナプキンがどこかに飛ばされてしまって
見つけれないと、それがどこかに落ちてゴミに
なるわ。動物が来てゴミ箱をひっくり返して散らかす
こともあるだろうし。」

「まあ、お母さん。割れたビンがあるわ。」と、
ディードラ。

「さわっちゃダメよ、ディードラ！」お母さんが
声をあげました。「だれかがケガをしないように
片付けたいのはいいことだけど、割れたり
とがっている物が落ちている時には、大人の人に
頼むのよ。あなたがケガをしないようにね。」

「やあ、ディードラ。何をしてるんだい？」友だちの
ジェフリーが声をかけました。

「わたしね、世界をより良くするお手伝いを
してるのよ。」と、ディードラが言いました。「ゴミを
拾ったら、公園が元通りきれいになるでしょ。」



「へえ、それは ありがとう。お父さん、ぼくも 手伝って
いい?」と、ジェフリー。

「もちろんだよ。だけど、まずは 軍手と ゴミ袋を
取って来ないとね。」と、お父さんが 言いました。

「すぐにもどって来るよ、ディードラ。」 そう
言いながら、ジェフリーは 家へ 走って行きました。

ディードラは にっこりしました。自分の 努力で 公園が
きれいになるばかりか、友だちも 同じ ことを する
気持ちになったのを見て、うれしく 思いました。

世界を より良く するために 自分に できる ことなんて
ちっぽけだなんて、思わないで くださいね。小さな ことや、
小さな 人たちは 大切なのですから! より良く できる
ことなら 何でも 大切なのです。ちょっとした ことでも、
周りの 世界を 気づかっているなら、それが 積み重なって、
大きく なります。それは、あなたから 始める ことが
できるのです!

